

## 2016年度のルールや採点について

東京都高体連体操女子専門部

### < 1 > 2016 年度高体連主催の大会における適用ルール

2013 年版採点規則「変更規則Ⅱ」を適用し、跳馬、段違い平行棒、平均台、ゆかの 4 種目で行う。

### < 2 > 2013 年版採点規則集変更規則Ⅱ内容の確認

#### 1. 競技規則

##### ・練習時間について

跳馬 ⇒ 2 回      平均台、ゆか ⇒ 1 人 30 秒      段違い平行棒 ⇒ 1 人 50 秒

※チームには、跳馬を除き、練習時間の合計が与えられる      個人グループには、個人に与えられる。

#### 補足

※跳馬の練習では、助走路上のいかなる助走も 1 回の練習とみなす。また跳躍台上からのジャンプ、宙返り等も 1 回の練習とみなされる。

##### ・助走（開始技）について

以下の種目において、追加の助走（開始技）は以下のように許可され、1.00 の減点を伴う。

跳馬：2 回の跳躍が要求されている場合、もし跳躍板や器械に触れていなければ、減点を伴って 3 回目の助走が認められる。（4 回目の助走は認められない）

##### 段違い平行棒

：もし 1 回目の試みで跳躍板や器械に触れたり、器械の下をくぐり抜けたりした場合

- ・減点                    -1.00
- ・選手は演技を開始しなければならない
- ・開始技に対する価値は与えられない

－もし跳躍板や器械に触れたり、器械の下をくぐり抜けたりしなかった場合、開始技の 2 回目の試みが認められる

- ・減点                    -1.00

－開始技の 3 回目の試みは認められない

平均台：もし 1 回目の試みで跳躍板や器械に触れた場合

- ・減点                    -1.00
- ・選手は演技を開始しなければならない
- ・開始技に対する価値は与えられない
- ・「難度表にない開始技」の減点が適用される

－もし跳躍板や器械に触れていない場合は、開始技の 2 回目の試みが認められる

- ・減点                    -1.00

－開始技の 3 回目の試みは認められない

##### ・跳馬は 3 助走 2 演技（1 演技でも可）

・跳馬、段違い平行棒、平均台での着地のために、基本の着地マット上に 10 cm の柔らかいマットを追加して使用しなければならない。（学年別大会・種目別大会・秋季大会はエバーマットでもよい）

・追加したマットは動かすことができない。

#### 補足

※開始技と終末技を同じ台の端から実施することは可能だが、着地用補助マットを移動することは出来ない。

※アウエルバッハ宙返り下りを実施する際は認められる。

・10 cm の着地マット上に跳躍板を置くことが許される。（段違い平行棒、平均台）

・段違い平行棒、平均台では、跳躍板を取り除くために演技台に上がることができる。ただし、その後は演技台から速やかに離れなければならない。

2. 選手の規則 採点規則集 P 2、3、4 また P. 23 参照

- ・レオタードが同一でない (同じチームの選手) - 1. 0  
(発覚した最初の種目から 1 回)
- ・ゼッケンがついていない - 0. 3  
(発覚した最初の種目から 1 回)
- ・マークがついていない - 0. 3  
(発覚した最初の種目から 1 回)
- ・誤った演技順での競技 (オーダーミス) - 1. 0 (団体: 団体総合得点より)
- ・追加の着地マットを使用しない - 0. 5 (当該種目)
- ・演技中に追加マットを移動する、または平均台の認められていない端へ移動する。 - 0. 5 (当該種目)
- ・跳馬のロンダート入りの跳躍技でのセーフティカラーの使用違反 無効 (0. 0 0)
- ・不適切あるいは美的でないパット - 0. 3 (当該種目)
- ・不適切な服装 (レオタード・装飾類・包帯の色) - 0. 3 (当該種目)  
※演技中下着が見える減点は、ここに含まれる  
※服装違反について以下の項目 を追加する  
化粧や装飾品類でのピアス・ネックレス・ブレスレット等をしている - 0. 3 (当該種目)  
※服装、レオタードに関しては別紙「全国高等学校適用規則」も参照のこと。

3. コーチの規則 採点規則集 P 5、6 また P 2 3、2 4 参照

- ・補助行為 (演技を助ける) 各 - 1. 0 (最終スコアから)  
(DV、CV、CRなし)  
※段違い平行棒: 選手の演技中、コーチが選手に触れても減点はない。
  - ・補助行為 (跳馬の跳躍中のすべて) 無効 (0. 0)
  - ・認められていない補助者がとどまる 各 - 0. 5 (当該種目)
- ※以下のような行動や言動があった場合にはイエローカードで警告、レッドカードでコーチ退場、また減点となる
- ・競技中に規定人数以上の人が競技場内に入ってはならない
  - ・許可なく演技台に入ってはならない (跳躍板を取りはず場合や怪我、器具の欠陥の場合を除く)
  - ・審判員の視界を妨げない
  - ・演技中の選手に直接話しかけたり、合図やかかけ声をかけない
  - ・罵る言動をしない

4. その他の減点 (一部抜粋) 採点規則集 P. 2 2 ~ P. 2 4 参照

- ・演技の前と後に D 審判員に挨拶をしない - 0. 3 (当該種目)
- ・主審の合図後、30 秒以内に演技を開始しない - 0. 3 (当該種目)

《2016 年度の大きな変更点》

落下による中断時間 (段違い平行棒)

- ・機械から落下したり、演技を続けるために再び段違い平行棒に戻るまでに 30 秒の中断が許される。
- ・もし、選手が演技再開までの許容時間を超えた場合、それでも選手が演技を続けるならば、中断時間の超過の減点 - 0. 30 が適用される。
- ・落下後、挙手をして挨拶することは演技再開には必要ではない。
- ・公式に演技が再開されるのは、演技再開のためにマットから足が離れた時である。
- ・もし、選手が 60 秒以内に演技を再開しなければ、演技終了とみなされる。

## 落下による中断時間（平均台）

：機械からの落下による演技の中断は10秒まで許される。

- ・もし、選手が演技再開までの許容時間を超えた場合、それでも選手が演技を続けるならば、中断時間の超過の減点-0.30が適用される。
- ・落下後、挙手をして挨拶することは演技再開には必要ではない。
- ・もし、選手が60秒以内に演技を再開しなければ、演技終了とみなされる。

## 5. 演技の採点 採点規則集 P15～P21 また、変更規則 P1、2 参照

### 1) 最終得点について

Dスコア+Eスコア=最終得点

必要に応じて、計時、ライン、行動などの減点（ND）を行う。

### 2) 跳馬

2回の跳躍を実施し、良い方の得点が有効点となる。

1回のみの実施であってもその得点が有効点となり、種目特有の減点はない。

### 3) Dスコアの内容

#### 1) 難度点（DV）

- 平均台やゆかは、終末技を含む最大8つの高い順からの難度点を数える。
  - ・アクロバット系の技は最大5つ
  - ・ダンス系の技は少なくとも3つ

#### 2) 構成要求（CR $0.5 \times 5 = 2.5$ ）採点規則集 P31～P46 また、変更規則 P1、2 参照

変更規則Ⅱの段違い平行棒・低鉄棒、平均台、ゆかでの構成要求CRは以下のとおりである

- ・ゆかのアクロラインのとらえ方については採点規則集 P44 参照

#### 変更規則Ⅱ 高校適用

##### 【段違い平行棒】

- ①高棒から低棒へ移動する空中局面を伴う技
- ②空中局面を伴う技（他とは兼ねられない）
- ③異なる握り（振り上げ倒立、開始技と終末技は除く）
- ④空中局面を伴わない360度以上のひねりを伴う技（中技のみ）
- ⑤終末技 B=0.3 C以上=0.5

※握りの異なる前方支持回転はCR③を認める。

##### 【平均台】

- ①180度開脚（前後/左右）または開脚屈伸姿勢のリープ、ジャンプ、ホップを1つは含む、少なくとも2つの異なる技からなるダンス系の組み合わせ
- ②ターン（グループ3）
- ③1つの空中局面を伴う技を含む、少なくとも2つの技からなるアクロバット系シリーズ（同一技でもよい）
- ④方向の異なる（前方/側方と後方）アクロバット系の技
- ⑤終末技 終末技 B=0.3 C以上=0.5

##### 【ゆか】

- ①1つは180度の前後/左右開脚または開脚屈伸姿勢を持つ、2つの異なるリープまたはホップ（難度表にある）で構成された直接または間接（ランニングステップ、小さなリープ、ホップ、シャッセ、シェネターンが入る）の組み合わせでの移動
- ②前方/側方と後方の宙返り
- ③ひねり（1回ひねり以上）を伴う宙返り
- ④2回宙返りまたは2つの異なる宙返りを含む1つのアクロライン
- ⑤終末技 B=0.3 C以上=0.5

※学年別大会、種目別大会、秋季大会については、CR⑤を以下のように変更する。

【段違い平行棒】 【平均台】 【ゆか】

⑤終末技 A=0.3 B以上=0.5

3 組み合わせ加点 (CV)

0.1 または 0.2

※平均台のシリーズボーナスについては、P39 参照

4) E スコア 10.00 (演技の実施)

欠点による減点は以下のとおり (一般欠点と減点表、各種目の細目と技術に記載)

—実施

—芸術性と振り付け

5) 短い演技の減点について 2013 年版採点規則集 変更規則について P.1 参照

- ・ 6 技以上 = -0.00
- ・ 5 技 = -4.00
- ・ 4 技 = -5.00
- ・ 3 技 = -6.00
- ・ 2 技 = -7.00
- ・ 1 技 = -8.00
- ・ 技がない = -10.00

補足

- ・ 短い演技の減点は「E スコア」から引かれる。

【2013 採点規則およびヘルプデスクの変更に伴う国内対応について】

<情報 22 号記載事項およびヘルプデスク記載事項>

第 6 章

注：もし選手が跳躍や演技を試みなかった場合、得点なし、順位なしとなる

(試みないとは：選手が演技台に姿を見せない、または跳躍版や器具に触れて示す)

<国内対応>

国内競技会においては、従来認められていたように、緑ライトの点灯または D1 審判員からの演技開始の合図の後、選手が D1 審判員に挨拶をし、跳躍版や器具に触れてから再び挨拶することで 0.00 点として扱うこととする。(すべての種目)